



幸せになるために
築いた安心と信頼で
新しい時代の夢を語るものづくり

鍛冶屋だった祖父が漁船のエンジンの設計製作・修理を主な業務として、当時県内最大の港町であった金浦に創業。それを先代・渡部秀男氏(現・会長)が、BtoBの機械部品製造に拡大し、1999年、渡部幸悦氏が社長に就任。リーマンショックや東日本大震災等による幾多の経営危機を精度の高い仕事を提供することで乗り越えてきた。仕事で得られる幸せとは何かを社員と常に模索し、新しい時代の“夢”を創りだす。

幸せになるために働く

「父から社長を引き継いだ当時は、とにかく全て自分でやらなければ! という一心で働いていました」。

それは渡部社長が38歳の時。子どもの頃から工場が遊び場で、祖父と父の背中を見てきた渡部社長にとって、会社を継ぐのは必然だった。就任後は、営業から材料発注、加工手配、出荷に至るまで、あらゆることを自分で手掛けた。社員の業務内容にも目を配り、細部まで指示を出す毎日。がむしゃらに働き続けたが、想いに反して業績は悪くなる一方だった。

「高い技術の丁寧な仕事売りだったはずなのに、大小問わずミスは減るところが増えていきました。ある日、あまりにもひどい状態だったので問いただしたら、社員に言われました。“そんな指示は受けていない”、と」。

会社のために、良かれと思って出していた指示も、社員の向上心と成長の機会を阻むものだった。このままではだめだ、と思った渡部社長は経営者としてのあり方を模索。プレーヤー

である社員から最高のパフォーマンスを引き出すには、自身もプレーヤーであってはいけないと気づき、指示ではなく目的を与える役割にシフトした。渡部社長は全社員に問いかけた。何を想って、日々を働くのか。働くのは、何のためか。

「答えはもちろんお金のため、それは生きる上で当たり前のこと。では、何故お金が欲しいのか。そこを突き詰めた時に答えが出ました。家族を養ったり、少し良い生活を送ってみたり。みんな、“幸せになりたい”から働くんですよ」。

失敗は財産 逆境で見えた自社の強み

大きな転機となったのは、世界を震撼させたリーマンショック。ダイキョー精機もまた、その余波を避けられず受注が70%減になる等、厳しい状況に陥った。その後も立て続けに東日本大震災や円高の影響があり、一時は倒産も覚悟した。

「ある意味、経営者としての道を祖父や父から“与えられた”自分が、本当の意味での会社を背負う覚悟を決めるきっかけ

となりました」。

業績や業務内容の徹底的な見直しを図り、経営者としての魂とも呼ぶべき経営理念に基づいた経営指針書の作成に着手。顧客との付き合い方も抜本的に見直した。当時は、顧客から例え無茶な納期や金額で依頼されても断らず、仕事を引き受けるケースが常態化しており、赤字に繋がることも多かった。断ったら次から仕事なくなるかもしれない、それでも会社の存続のため渡部社長は、ある時依頼された明らかに赤字となる大口の案件を断った。その結果は意外なものだった。

「価格重視で他社に頼む、と切られた電話が再び鳴ったのがその2週間後。コストだけを見て決めた他社では品質基準を満たせず、何とか仕事をお願いしたいと頼まれました」。

この経験は、自社の強みを再確認するものであった。3代目として受け継いだ会社設備は、古いものが目立つ。多品種小ロットの産業機械部品を扱う同社では、正確無比な技術に定評はあるものの、同様の機械と設計書があれば、他社でも同じものは作れるだろう。何故、顧客が自身の会社を選んでくれるのか――。



1~4 大小さまざまな機械部品を製造。自身の言葉を尊び、やると言ったら必ずやる有言実行の職人たちへの信頼は厚い。

5 全社員の道標である経営理念表紙「目指すは製造業のアスリート」技術への挑戦に終わりは無い。

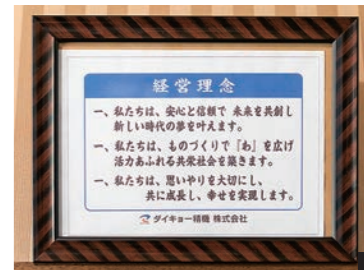
「それは、当たり前のことを当たり前にする。特に品質と納期は絶対に守ります。お客さまには、この人に、この会社に任せておけば安心だという信頼感を買っていただいています」。

品質と納期を守る安心と 信頼のものづくりで 新しい時代の夢を創る

渡部社長の経営手腕によって、存続が危ぶまれる程の危機を脱して黒字に転じたダイキョー精機。支えてくれた社員のため、年次休暇の増加や加点方式を採用した賞与支給制度など、職場環境の向上にも力を注ぐ。安請け合いの仕事を減らして付加価値の高い仕事に集中できるようにしたこと、総労働時間から仕事量を逆算して1時間当たりの労働生産性を上げたことで、利益率の低い残業を削減すると同時に、従業員のモチベーションや自尊心の向上にもつながった。

「私たちが日々製造している多種多様な産業機械部品は、この世界を動かす様々な歯車のひとつ。未来の生活を支えるロボットや電気自動車、AI業界の一翼を担っています。これからも妥協のないものづくりを、提案していきたいですね」。

自分たちも含めた人類の新しい時代の夢に向かって。この先20年間の人材の年齢構成、業務スキルや配置、個人や会社为实现したいことをボードに整理し、中長期の道筋を想像する。渡部社長が描く幸せのビジョン。それを實現するものづくりの道を、信頼する社員とともに今日も歩んでゆく。





ダイキョー精機株式会社

〒018-0311
秋田県にかほ市金浦字蒲萄森41-1
TEL. 0184-38-2202
FAX. 0184-32-4020
<http://www.daikyo-seiki.co.jp>

- 創業 / 1953年
- 資本金 / 1,405万円
- 従業員数 / 12名
- 営業項目 / 精密部品加工

代表取締役社長
渡部 幸悦
わたなべ こうえつ